

1 主題名 本当の友達 <B-(10) 友情、信頼 >

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は学習指導要領の内容項目B「主として他の人とのかかわりに関すること」の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」を受けて設定したものである。これは、第1・2学年の「友達と仲よくし、助け合うこと。」を受けたもので、第5・6学年の「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」に発展していくものである。

3年生の発達段階においては、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動がこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害に基づく衝突が強くなる傾向も見られる。このような特性から、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことについて指導していくことが必要であると考えます。

(2) 児童の実態について

事前調査	(令和4年7月15日 29人)
①仲の良い友達がありますか。	いる 29人 いない 0人
②友達に助けてもらったことはありますか。	ある 28人 ない 0人 無回答 1人
③友達が、まちがっていることをしていたらどうしますか。	そのままにする 1人 (・まちがってないと言われたら嫌だから) その場で言う 24人 (・ケガをしたら大変だから・困るから ・またまちがえてしまうから・そのままにしたらあとで嫌な思いをするから) あとで言う 4人 (・勇気が出ないから・様子を見てから言った方がいいから・恥ずかしいから)

本学級の児童は、気の合う仲間集団をつくり、行動範囲を広げて活発に活動する姿が見られる。友達との結束が進み、友達を大切にしようとする意識も強くなる。しかし、友達だからと、良いこと・悪いことの判断をあいまいにしてしまうこともある。

事前調査の結果から、親友と呼べる仲の良い友達をもつ児童がほとんどであることがわかる。友達が間違っていることをしていても、「勇気が出ないから」「恥ずかしいから」という理由で、仲が良いからこそ注意できないこともあると感じていることも伺えた。そこで、本時では、これまで築いてきた関係性を大切にしながらも、間違っていることを伝えることも友達として大切な気持ち・行動だという考えを深めていきたい。

(3) 教材について (資料名「なかよしだから」出典 東京書籍)

本教材は、うっかり算数の宿題を忘れてしまった「ぼく」が、仲良しの実君に答えを教えたらおうと思いつくところから始まる。前日、実君にカーブの投げ方を教えてあげたから、そのお返しに教えてくれるだろうと考えるが、実君に「なかよしだから、なお教えられないよ。」と断られ、「ぼく」がよい友達の意味について考える教材である。実君がなぜ宿題を教えてくれなかったのか、「ぼく」と実君のやりとりや、「ぼく」の気持ちの変化について考えていくことを通して、よい友達とは、相手の気持ちや考えを理解し、認め合い、尊重し合いながら心を通わせるものだということに気付かせ、ねらいに迫りたい。

